

日本原子力学会 核燃料部会  
平成 31 年度第三回運営小委員会議事録

日時 : 令和元年 11 月 1 日 (金) 13:30~17:10

場所 : 日本原子力学会事務所 会議室

出席者 : 宇埜部会長、加藤副部会長、草ヶ谷副部会長、天谷委員、尾家委員、川西委員、篠原委員、島田委員、園田委員、谷口委員、原田委員、樋口委員、松本委員、牟田委員、柳沢委員、渡部委員、大堀 (記)

### 議事

#### 1. 前回議事録等の確認 (資料 1)

大堀から、前回 (平成 31 年度第二回) 運営小委員会議事録を紹介した。事前にメールにて確認済みである旨紹介し了承された。

#### 2. 委員交代 (資料 2-1,2)

大堀から、北海道大学小崎委員から澤委員への委員交代に関する部会全体審議の手続きについて 11/6 付で情報メールにて行う旨を紹介し、了承された。また、澤委員の選任にあたり、北海道大学宛てに部会長名で委員許可願いを発行することについて紹介した。

#### 3. 令和元年度部会業務分担について (資料 3-1,2)

大堀から、令和元年度核燃料部会の業務分担案について紹介および提案をし、以下の内容について、了承された。

- ①部会ホームページを適切に更新することを目的に、広報 (HP 担当) を追加する。広報 (HP 担当) はグループ 4 (電力) の持ち回りで担当する。
- ②広報情報委員会ポジションステートメント WG (PSWG) には、加藤副部会長に委員として参加していただく。

また、以下の点については、後日メールにて確認することとした。

- ①グループ 3 (産業界 2) で担当している国内企画について、近年、部会賞 (学会講演賞) の追加等により担当業務が多くなっていることから、以下の通り、業務を分担することについて、グループ 1 (大学) の委員の方に確認する。グループ 3 は定期的に業務が発生する部会賞の取りまとめを担当し、グループ 1 の国内企画担当委員には、企画セッションの取りまとめ (提案書の作成等) を担当していただく。

- ②グループ 1 (大学) の分担表に京大複合研の黒崎先生を追加したが、追加した位置が問題ないかをグループ 1 の委員に確認する。

主な議論は以下の通り。

#### ○広報（HP 担当）の追加について

- ・ 広報（HP 担当）については部会細則に定義する必要はないか。
- HP 担当はあくまで、広報担当のサポートを実施するものであり、部会細則に定義する必要はない。現状、部会報担当も定義されておらず、これと同じと考えている。
  
- ・ 部会賞関連の HP に関しては国内企画が担当するのでは。
- 部会賞候補者の募集等の依頼は国内企画から庶務幹事に依頼する形で実施しているが、HP に掲載されている過去の受賞者名簿等の更新が近年なされていないことから、これの更新を広報（HP 担当）が担当する。
  
- ・ HP 管理者林氏への依頼件数の管理はどうするのか。
- 林氏の HP 管理費用に関しては、業務 1 件あたり 1 千円としており、庶務幹事が件数を把握しておく必要があるため、林氏へ依頼メールを出す場合は、庶務幹事を cc に追加していただきたい。

#### ○PSWG 委員について

- ・ 過去に核燃料部会から 1 件 PS を出してはいるが、学会からは PS を提案するように言われているのか。
- 部会等運営委員会において、広報情報委員会から積極的に提案するよう話があった。
  
- ・ 分担表に加藤副部長が現状入っていないが、追加しないのか。
- すでに JAEA の方に 2 名分担しており、担当機関をばらつかせるという観点から、追加していない。
- PSWG 委員に関しては、年 3,4 回開催されることもあり、地方から参加することは厳しいと考えられる。現状、加藤副部長には分担していただいている業務は無いことから、PSWG 委員をお願いすることとしたい。

#### ○国内企画の担当業務について

- ・ 国内企画の業務に関しては、グループ 3 の国内企画担当だけでほとんど対応しているが、部会賞（学会講演賞）の追加等により近年膨大となっており、一部を他のグループに分担していただきたい。
- グループ 1 の委員に関しては遠方から参加されている方もいることから、部会賞の選定等に係る事務局を担当するのは難しいと思われる。
- 企画セッション関連の業務であれば、合同セッションが開催される場合もあり毎年業務が発生するわけではないことから、頻繁に東京に来ることも無いと思われる。グループ 3 は部会賞を主に担当し、企画セッション提案書の作

成等をグループ1の委員の方に分担していただくことはできないか。  
→今回参加されていないグループ1の委員もいることから、本件については後日メールにてご意見をうかがうこととしたい。

#### ○その他（ご意見等）

- ・部会賞の選考に関しては、選考委員を毎回各自に依頼しているが、あらかじめ持ち回りを決めておいても良いのではないか。（今年は問題なかったが、委員を数人に断られる年もあり、その場合、選考委員をお願いする手間が非常にかかる。）

#### 4. 令和元年度収支実績と令和2年度予算案（資料4）

大堀から、令和元年度9月末時点の収支実績、および令和2年度予算案について紹介した。ただし、令和2年度予算案については、本部配分金が最新の値となっていないことから、後日予算案を作成し、関係者に確認していただくこととした。（11/5 追記：令和2年度配分金は230,000円（2019年度から-14,000円））

なお、来年度予算案の策定にあたっては、学会全体の予算を厳しく精査するため、十分検討するようにとの連絡が学会事務局からあった旨、宇埜部会長から周知があった。

#### 5. 核燃料部会・部会賞（学会講演賞選考結果）について（資料5）

篠原国内企画担当から、2019年秋の大会学会講演賞の選考結果について報告され、以下の2名を受賞者とする事について承認された。

（選考結果）

- ・石井 大翔（大阪大学大学院工学研究科）
- ・小宮山 大輔（三菱原子燃料）

選考はメール審議で実施し、素点ベースに加え、昨年度から導入した上下カットベースのスコアを基に2名の受賞者を選定したことが紹介された。

また、本件については、以下の提案があった。

- ・現状、0点以外をつける場合は、必ずコメントをつけることとしているが、±1点の場合は、コメント無しにスコアをつけても良いのではないか。

さらに、選考結果の通知の際に、現状は実施していない選考結果のフィードバックを実施するべきかについて議論し、どういった内容で通知することが可能か引き続き検討することとした。

#### 6. 企画小委員会の概要について（資料6-1,2）

草ヶ谷副部会長から、8月21日および10月16日に開催された企画小委員会

の議事録の紹介があった。この中で、来年度の中国で開催予定の WRFPM について、前例にならない日本から 2 名程度運営委員を参画する必要があることが周知された。

#### 7. 2020 年春の年会における企画セッションについて（資料 7）

篠原国内企画担当から、2020 年春の年会における企画セッションの構成案について提案があった。企画セッションの内容は、企画小委員会の議論を踏まえて「事故耐性燃料（ATF）」とすること及びセッション後半にパネルディスカッションを実施することが提案された。

議論の結果、企画セッションのテーマとして ATF をすることについては了承されたが、パネルディスカッションの形式を採用するかについては、継続して検討し、次回企画小委（2020 年 1 月開催予定）までに決定することとした。

主な議論は以下の通り。

- ・本セッションにエネ庁から参加していただくことについて、エネ庁に了承はとれているのか。  
→了承は取れている。ただし、具体的な参加者は未定（調査官もしくは課長代理の役職の方が参加すると思われる）。
- ・規制庁の方は参加する予定はないのか。  
→規制庁の方が参加する予定はない。
  
- ・大学の先生からも ATF 開発に期待することについて講演いただいても良いと思われる。
  
- ・パネルディスカッション形式ということだが、議論の共通テーマをしっかりと定めておかないと、パネルディスカッションは難しいのではないかと。  
→ATF 導入に対する各社のスタンスや照射試験という共通課題はあると思われる。
- 電力からも参加予定としているが、何を議論するのか、ある程度どういったシナリオでやるのかを決めておいていただきたいと考えている。
- パネルディスカッションの成立性が低い場合は講演形式とすることも検討すべきではないか。
- 本セッションの形式については、後日決定することとし、予稿の締切までに決定すれば良いと思われるため、次回企画小委の前までに決定することとしたい。別途 ATF の国プロ参加メンバーで集まる機会もあるため、その場でも本セッションについて相談しておく。

#### 8. 平成 31 年度夏期セミナーの開催報告について（資料 8）

天谷 H31 年度夏期セミナー担当から、H31 年度夏期セミナーの開催報告があった。今年度の夏期セミナーに関しては、25 歳以下の若手の参加割合が多かつ

たこと（全体の 23%）、参加費の高い非部会員の参加が当初見込みより多かったことが報告された。また、非部会員の参加が多かったことから、今年度夏期セミナーの収支差額は 179,276 円の黒字であり、ここから本部回収額（20%）を差し引いた額が余剰金となる見込みであることが紹介された。また、CPD（自己研鑽）プログラムの登録を推奨していることについて宇埜部会長から説明があった。（学会の教育委員会から継続研鑽の観点から、各部会で実施する教育プログラムに対して CPD 登録への協力依頼があり、これを受けて実施しているものである。CPD に登録すると、その教育プログラムの実施証明書および登録実績リストを受け取ることができる。）

#### 9. 令和 2 年度夏期セミナーの開催について（資料 9）

草ヶ谷副部会長より、令和 2 年度夏期セミナーの開催案について提案があり、以下の日時および場所で開催することについて了承された。なお、これらの場所及び日程に関しては、企画小委員会の議論を踏まえて、学生が参加しやすいよう配慮して決定されている。（試験期間と重複しない時期等）

開催場所：石川県七尾市和倉温泉地区 旅館「のと楽」

見学場所：北陸電力 志賀原子力発電所

日程：2020 年 8 月 3 日（月）～8 月 5 日（水）（2 泊 3 日）

予算に関しては、参加しやすい費用設定とするために、余剰金の取崩しを前提とした予算を検討することとなった。（予算案に関しては 11 月 25 日までに学会事務局に提出する必要があることから、それまでに策定する。）

また、夏期セミナーの開催案内に関しては、学生の参加を促すために、早期に開催案内を実施すること及び開催案内にあらかじめ具体的な補助金額を提示することとした。

その他、支出低減策として、テキストの電子配布（部会 HP 上での事前公開）、希望者のみのテキスト購入が提案されたが、これらの採用は見送ることとした。

#### 10. ATOMOΣ連載講座について（資料 10）

草ヶ谷副部会長より、学会事務局からの原子力学会誌 ATOMOΣ への連載講座掲載依頼に対する回答案について提案があり、以下の内容で回答することについて了承された。回答に関しては、11/5 に宇埜部会長から学会事務局に対して回答する。

執筆：可、連載回数：5 回程度

仮題：「多様な原子燃料の概念と基礎設計」

第 1 回原稿提出時期：2020 年 11 月頃

また、連載講座の内容としては、4 ページ程度で専門家ではない人が読むことを想定した内容とすること、多様な燃料設計について掲載するためにメーカ、

大学、JAEA に幅広く原稿を担当していただくこととした。

連載講座の具体的な内容および担当者の調整に関しては、次回企画小委で検討した後、次回運営小委員会において改めて議論することとした。

主なコメントとしては以下の通り。

- ・原稿の担当としては、軽水炉：メーカ、高速炉：JAEA、ガス炉：NFI、熔融塩：大学という振り分けになると思われる。また、将来燃料という観点では、ADS 用の窒化物燃料ならば、ある程度原稿を作成できるかもしれない。

#### 1 1. 核燃料部会報 55-1,2 の作成状況について（資料 11）

部会報担当の尾家委員から、部会報 No.55-1,2 の作成状況について紹介があった。故大石名誉教授の追悼記事に関しては、12 月発行予定の No55-1 に掲載することとなった。また、記事の原稿は高木委員にお願いすることとした。

ただし、大石先生の学外でのエピソードが不足していることから、JAEA（動燃の顧問時代の情報等）や各企業で大石先生の情報や写真等が無いかを調査・収集することとした。調査に関しては、2 週間程度で実施し宇埜部会長に連携後、11/15 頃に宇埜部会長から高木委員に送付することとなった。

#### 1 2. 熔融燃料 SWG 報告書の取扱いについて（資料 12）

大堀から、電中研尾形氏より提案のあった熔融燃料 SWG 報告書の HP 公開に関して、問題点等を説明した上で対応案を議論した。その結果、引用文献の著者への許諾が現実的に不可能であるため、対応案①の本報告書は SWG メンバーで共有するに留めることとした。ただし、部会員への本報告書の共有が可能かについては引き続き検討する。

主な議論は以下の通り。

- ・本報告書のページ数はどの程度か。  
→800 ページ程度。
- ・WG の報告書は確認できるのか。  
→WG の報告書に関してはインターネット上に掲載されている。その中に、SWG の活動報告は掲載されているが、詳細な調査結果は記載されていない。
- ・出典が明確となっていれば、引用文献の著者への許諾は不要なのではないか。  
→本報告書は、一部引用しているというよりも、引用文献の内容を再掲載しているような内容となっている。一部引用であれば、その対応で問題ないが、再掲載の場合は引用先にも HP 上への掲載について確認が必要と思われる。

- ・夏期セミナーで会議資料として配布することはできないか。

→学会から CD-R の配布も許諾は必要と回答をいただいております、難しいと思われる。

- ・非常に有益な報告書であるため、できれば部会員で共有できるようにしたいが、現状としては対策案①として SWG メンバーで共有するに留めることとする。

→部会員への共有が可能かについては、引き続き検討する。

### 1.3. 部会等運営委員会からの連絡事項（資料13）

草ヶ谷副部長から、部会等運営委員会からの連絡事項として、以下の内容について周知があった。

#### ①企画セッション関係

企画セッションについて、関連する他の企画セッションとの時間の重複を避けるための取り組みとして以下の示唆があった。

- ・他部会との合同セッションの推奨
- ・他部会セッションとの重複回避を希望する場合は提案書にその旨を明記

また、学会事務局から、企画セッションのみに参加する講師（参加費無料）も総受付で受付する必要があるとの注意があった。

#### ②広報関係

広報情報委員会から以下の2件の依頼があった。

- ・プレスリリースの積極的な活用
- ・ポジションステートメントのテーマの積極的提案

#### ③国際会議等参加への若手渡航費支援関連

国際会議に参加する若手への渡航費支援に関し、他部会で予算外申請が行われたことに関連し、財務理事から以下の点に留意するよう依頼があった。

- ・当初設定予算を遵守する意識
- ・各候補の選定根拠の明確化（議事録に選定結果を残す等）
- ・部会内の若手渡航費支援制度の周知の確実な実施

このうち、③について、本制度の利用に関して、具体的な手続きマニュアル等があるのかについて、庶務幹事から学会事務局へ問い合わせることとなった。

### 1.4. その他

#### (1)宇塾部会長からの提言

宇塾部会長から、以下の内容について提言があった。

#### ①部会長選任基準の見直しについて

これまで部会長は、大学または JAEA の方から選任されてきたが、これについ

ては今後見直しを検討した方が良いのではないか。

②燃料関係の研究専門委員会の提案について

技術継承という観点から、燃料関係の研究専門委員会を積極的に立ち上げていった方が良いと思われる。もし、提案があればお願いしたい。

(2)次回運営小委員会について

次回の運営小委員会（第四回）は、2020年2月に開催予定。（2/10,14,27以外の日程で調整する。）

以 上